opusdei.org

属人区長の手紙 (2015年3月)

属人区長の書簡では、教会が 過ごしている四旬節を中心に して、特に人々への愛徳を生 きるように勧めています。

2015/03/11

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに!

四旬節が始まって十日経ちました。 教会は、感謝のうちに、イエス・キ リストの砂漠における40日間の祈り

「『今、私たちはエルサレムへ上っ て行く』(マルコ10,33)このみことば で、主は、弟子たちを、共に旅に出 るよういざないました。この旅は、 ガリラヤから、主が救いの使命を成 し遂げられる地までの旅でした。エ ルサレムへの道は、福音記者たちが イエスの地上での旅路の頂点として 描きあげていますが、十字架に向か われる師に従うことを心に決めたキ リスト者たちにとっては原点となる 旅だったのです。今日でも、わたし たちは皆、キリストによる『エルサ

レムへ上って行こう』という呼び掛けを受けています。キリストは、自らを省み、主との十全な交わりを見いだしつつ、その死と復活の秘儀に参加するのに適切なこの四旬節に、特にこのことを強調しておられます。

ですから、四旬節は、信じる者に、 人生を深く省みるための適切な機会 を与えてくれるものなのです」 [1]。

 人ひとり見守り、私たちが主から離れた時にも探し出し、いつも神の心はとして振る舞うことを決づされることをお正めになることをお止めになることをお止めに過ごしていることをお追に過ごとをでいるでは、他の人々のことをはまったく違いでいる神とはまったく違いでいる神とはまったく違いでいる不正義などに関心を示さない…」[2]。

この危険を乗り越えるため私たちは お互いに連帯しなければなりません。何よりも、聖徒の交わりにつ来ることです。すると一来る日も来る日も一、霊的・物的よりであるとのようがあるとのようにどのようにどのようにどのようにどのするでしょう。それるでしょう。それをでしょう。それをでしょうにどのようにどのは、これでは、これでは、これではないないない。 な献身でキリストに倣うまたとない 時季になるはずです。

このための強さは神のみことばに注 意深く耳を傾け、秘跡一ゆるしの秘 跡とご聖体一に与ることで培われま す。教会はこの時季になすべきこと を、掟として具体的に指摘していま す。霊的に相応しい状態で聖体拝領 をし、主にますます似たものになっ ていき、一創立者が繰り返していた ように一ipse Christus キリストに同 化するほどイエスとの一致がより完 全なものになっているのかというこ とを自問しましょう。そして、利己 主義に覆われた心や、自己中心にな ることを放任しないで、他の人々の あらゆる困窮を自分のものとして受 け止めましょう。「キリストに属す るものは皆、一つのからだの一部で あり、キリストにおいて互いに無関 心ではいられないからです」[3]。 聖パウロの明快な一文を思い出さず にはおれません。「一つの部分が苦

しめば、すべての部分が苦しみ、一つの部分が尊ばれれば、すべての部分がをもに喜ぶのです」[4]。

子供たちよ、もっとも関心があるの は、この考えを病人の世話に当ては めることです。それはイエス・キリ ストが特別に報いて下さる慈善事業 です。また、日々、自分の信条ゆえ に迫害されている人たちのためにも 祈りましょう。誰をも他人事と考え てはなりません。彼らに恩恵を与 え、力づけてくださるよう主にお願 しましょう。愛徳には秩序がありま すから、まずもっとも近しい人たち 一私たちの超自然的な家族や血縁の 家族、友人や隣人、仕事仲間一から 始め、様々な状況で出会い、特別な 絆で兄弟となったすべての人たちに 及ぶものです。

非常に明確なすすめを引用しましょう。(教会組織は)「わたしたちが一つのからだの一部であることを体験

できるものになっているでしょうのになっているでは、神がお与えになるともになったものとものからっともがいまるがいまりが、からでしょうかのでしょうかのでしょうかのでしょうが、はないでしょうないが、関ざされた原の前にうが出る。はないないないでしょうないにしていないでしょうにもりにいる。

こで、惜しみない心で病人や高齢 者の世話に携わっている私の娘人たちに、また他の多くまたもに、また他の多しました。 おいだれほどお喜びので強いないでの仕事にはなっていばないでででででででででででででででいる。 とを知で現実を見るようにしたといる。 自分の家庭や他のととのである。 ように、主のさままでは、主の語倒を見ることは、主の語の面倒を見ることは、主の慈悲深 い聖心に緊密に一致することになります。決して犠牲を惜しむこと打ちなく、心を込めて彼らの世話に打ちはむまうに努めましょう。 喜んないと関わったがらと関わったがらと関わったがある。でした一知っていますのお望みを果たすためのです。

「力添えを求めてマドリードのもっ とも貧しい地区に行きました。毎 日、あらゆる所に出かけ、何時間も 何時間も、もう本当に何も持たない 赤貧の憐れな人々の間を歩き回りま した。子供たちの中には鼻水を口ま で垂らしている汚い子もいました。 しかし子供です。つまり神に嘉され る人間なのです。(…)何という善、 何という喜びでしょう。多くの時間 をその仕事に使いましたが、もっと できなかったことを残念に思いま す。病院で、病人のいる家で、言う なればあのあばら家で…。見捨てら れ、病気になった人たちの中には、 当時不治の病と言われていた結核に 患っている人もいました。(…)

厳しい数年間でしたが、その間にオプス・デイは人知れず内部で成長していたのです。しかし、言いたいことは一いつの日か、資料や書類でより詳細が分かるでしょう一、オプス・デイの人間的な拠り所は、マド

リードの入院患者、家にありながら 人間としての最低限度の望みも叶え られないもっとも貧しい人たち、あ の場末の無知の人たちだったという ことです」[6]。

病気の人たちにお勧めします。世話をしている人たちのキリストをしている人たちのきりにないないでででは、ないのでは、ないのでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、での世話によっているとしてのは、では、でいるでは、ないでは、でいるといった。

近づいている聖ヨゼフとお告げの大 祝日も大きな喜びですが、この家族 のためのマリア年には特別な意味合 いを帯びることになります。という のも、ナザレの聖家族の雰囲気をあ

教皇様は、最近の講話で家庭における母親・父親の役目の重要性を強調し、こうお話しになりました。「母親は、自己中心的な個人主義の・蔓に、自己中心的な個人主義のもの特効薬です」[7]。父親にも役まったす。とを強調することがあることを強調することがあることを強調することがあることを強調することがあることを強調することがあることを強調することにがあることにが必要です。嘆かわしいことに「今日、現代社会は『父親不在の社

会』という人まで現れるようになっ てしまいました。特に西欧文化にお いて、父親像は象徴的な意味で失わ れ、ないがしろにされています| [8]。これは大いに間違った態度で す。あらゆる時期における子供の健 全な発育のためには母親と同じよう に父親の存在も欠かせません。教会 と市民社会の生きた細胞一家族一の ため惜しみない心で熱心に祈ってい るでしょうか。各家庭がイエスのお 住まいだったナザレの家庭の延長線 上にあるよう祈っているでしょう か。多くの父親母親の寛大で喜びに 満ちた献身を感謝しているでしょう か。子供に恵まれなかった夫婦が、 神のみ旨を愛し、さらに全人類に什 える模範を示すことができるよう、 祈っているでしょうか。

神がお与えになる子供の数が多いか 少ないか、あるいは全くお与えにな らないかは別にして、全てのキリス ト者の家庭には「家庭教会」である

ことの喜びを伝える使命があるので す。ですから、聖ホセマリアの教え をお伝えします。いつも子供たちを 「喜んで感謝をもって受け入れなけ ればならないと | 強調し、「なぜな ら、それは神からの贈りものであり 祝福であり、神が信頼しておられる 証拠だからです」[9]。そしてこう 加えています。「キリスト者の家庭 で子供たちが少なくなると、間違い なく司祭の召し出しが減り、イエ ス・キリストに什えるために一生を 捧げる人が少なくなります。私は、 神から頂いたたった一人の子供を、 寛大に神に捧げた夫婦を何組も知っ ています。しかしこう言うケースは そう多くありません。大家族なら神 的な召し出しの偉大さをより簡単に 理解し、子供たちは、いろいろな生 き方をすることができます」 | 1 0].

夫婦はいつも子供に恵まれるとは限りません。恵まれない場合、結婚は

失敗だったと考えるべきではありま せん。そうではないのですから。別 の形で一これもまた神的なものです 一主が夫婦の愛を祝福しておられる のです。創立者が強調しています。 「大家族を見るのは大きな喜びで す。しかし、子供を授からなかった 夫婦に会うときも喜びに満たされま す。彼らは、自分の家庭を聖化でき るだけではなく、よその子供たちの 世話のために時間を使うことができ ます。すでに多くの人が惜しみない 心でそうしているのに感動していま す。私は、この世の気高い愛情を励 ましこそすれ、否定したことなどは ないと明言できることを誇りに思い ます。というのもそれは一日毎に もっと一深めるべき神的な道だから です | [11]。このような夫婦の喜 びのある忠実を神に感謝しましょ

聖ヨセフの祝日には、この義人が神 の頼みをすべて引き受け、それを果

う。

たしたように、私たちの日々の全生 活も神への忠実さで満たされるよう に願いつつ、聖なる太祖聖ヨセフに より頼みましょう。3月28日は、創 立者の叙階90周年になることを思い 起こして結びにしたいと思います。 特別に信心を込めて嘆願を続け、教 会と教皇様、司祭や修道者の召し出 しのため、一これも神的なものであ る一社会の真っただ中で全面的な奉 献生活を送る、使徒的独身者あるい は既婚者の召し出しのため、そして すべてのキリスト者の忠実のため、 創立者にお願いしてください。私た ちが社会の中で観想者として過ごす ことができるように、信仰と信頼を もって、聖母と聖ヨセフにお願いし なさい。そして私の諸々の意向のた め引き続き祈ってください。

年の黙想の前に、皆さんと一緒に、 創立者と共に祈るためロレットに 行ったことを喜びのうちにお知らせ します。私はいろいろな場合に創立 者に付き添い、どんなにか聖母を愛し、ご自分の娘・息子達とご自分の一生をその御手に託されたかを見ることができました。素晴らしいオプス・デイ! それは聖なる教会にもっとよりよく仕えるためのものです。

心からの愛を込めて祝福を送りま す。

皆さんのパドレ

†ハビエル

ローマ、2015年3月1日

[1] 聖ヨハネ・パウロ二世、2001年 1月7日「四旬節メッセージ」。

[2] 教皇フランシスコ、2014年10月 4日「2015年の四旬節メッセー ジ」。

- [3] 同上
- [4] 1コリント1,26.
- [5] 教皇フランシスコ、2014年10月 4日「2015年四旬節メッセージ」。
- [6] 聖ホセマリア、1975年3月19日 家族の集まりでのメモ(『Por las sendas de la fe』 Cristiandad 2013, pp.146-147)
- [7] 教皇フランシスコ、2015年1月 7日一般謁見の講話。
- [8] 教皇フランシスコ、2015年1月 28日一般謁見の講話。
- [9] 聖ホセマリア、1959年1月9日手 紙54番。
- [10] 同上 55番。
- [11] 聖ホセマリア、1969年4月10 日家族の集まりのメモ。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/zokujinkuchouno-tegami-2015-3/(2025/12/10)